

### 37. たまねぎ

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	Zボルドー	散布	-	-	野菜類（キャベツを除く）
24+M1	カスミンボルドー 銅シン水剤	散布	収穫14日前まで	5回以内	
-	(クロロピクリン) クロピク80 ドクロール	土壌くん蒸	-	1回	
	クロールピクリン	土壌くん蒸	-	1回	
M3	(マンゼブ) ジマンダイセン水剤	散布	収穫3日前まで	5回以内	
	ペンコゼブ水剤	散布	収穫3日前まで	5回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫7日前まで	6回以内	
1	トップジンM水剤	散布	収穫前日まで	6回以内(但し、定植後は5回以内)	
40+M3	フェスティバルM水剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
29	フロンサイド水剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
45+40	ザンプロDMフロアブル	散布	収穫7日前まで	3回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	スミチオン乳剤	散布	収穫21日前まで	2回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
苗立枯病 (F)	苗床期間	1. クロロピクリン剤などで苗床の土壌消毒を行う。土壌消毒の項を参照し、登録薬剤を用いる。	1. 毎年苗床の場所をかえる。
べと病 (F)	9月上旬～11月中旬(苗床期間) 3月下旬～収穫まで(特に4月中旬～6月上旬)	1. マンゼブ(ジマンダイセン、ペンコゼブ)水剤400倍液、ダコニール1000、フェスティバルM水剤の1,000倍液、フロンサイド水剤1,000～2,000倍液のいずれかを10日おきに散布する。  [参考農薬] 1. ザンプロDMフロアブル2,000倍液を散布する。	1. 多発地は2～3年休載する。 2. 日陰や過湿地での栽培を避け、排水と通風を図る。 3. 収穫時に病株は集めて埋めるか、堆肥として完全に醗酵させる。 4. 採種地では、食用栽培を避ける。 5. フロンサイドは、人によってかぶれることがあり、かぶれやすい人は使用しない。 6. フロンサイドは、灰色腐敗病、白色疫病にも効果がある。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
黒 斑 病 (F)	4月上旬～ 収穫期	[参考農薬] 1. ジマンダイセン水和剤 400～600 倍液を 散布する。	1. 発生地では連作しない。
さ び 病 (F)	5月下旬～ 7月上旬	1. 被害残渣は、ほ場外に持ち出す。 2. 肥料切れすると発生が多くなるので、施 肥を適切にする。	1. 多発地では連作しない。
灰色腐敗病 (F)	5月上旬～ 6月上旬	1. トップジンM水和剤 1,000 倍液を散布す る。	1. 病球の貯蔵を避ける。
軟 腐 病 (B)	生 育 期 間	1. Z ボルドー500 倍液、又はカスガマイシ ン・銅水和剤 (カスミンボルドー、カッ パーシン水和剤) 1,000 倍液を散布する。	1. 発病前から予防的に散布する 2. 軟腐病の防除では薬剤防除だけ でなく、残渣処理などの耕種的 防除を併せて行う。
アザミウマ類 (ウイルス媒 介)	4月～6月 9月(苗床)	1. スミチオン乳剤 1,000 倍液を散布する。	1. 採種地では、食用栽培を避ける。 2. 高温乾燥時に多い。 3. たまねぎは、ネギアザミウマが 媒介するアイリスイエロースポ ットウイルス(IYSV)の伝染 源となる恐れがあるので、アザ ミウマ類の防除を徹底する。
タネバエ	植 付 時	1. 堆肥は十分完熟したものを施用する。 2. 前作の残渣等が十分分解してから、作付 けを開始する。 3. 土壌水分が高い条件では産卵数が多く、 幼虫の生存率が高まる傾向があるため、 排水性を確保する。	1. 多発させない環境を整えるのが 重要である。 2. 未熟堆肥や魚かす、鶏糞を使用 すると、臭いに誘引され発生が 多くなる。